

# 小平市農業委員会だより



平成 28 年 9 月 (2016 年)

発行：小平市農業委員会 〒187-8701 小平市小川町 2 丁目 1333 番地  
電話：042-346-9533 (直通) FAX：042-346-9575

## 第 17 号

### 平成 27 年度受賞農家一覧 (敬省略)

<b>東京都農業会議</b>	
企業的農業経営顕彰 東京都農業会議会長賞 全国農業会議所会長賞	島村 速雄 敏江
企業的農業経営顕彰 東京都農業会議会長賞 東京都産業労働局長賞	川里 利雄 眞友美
農業後継者顕彰 東京都農業会議会長賞	島村 将人 さやか 村野 幸徳
農業功労者感謝状	川里 静代
<b>北多摩地区農業委員会連合会</b>	
優秀農業経営者表彰	向野 勝久
<b>東京都農林水産振興財団</b>	
新規就業奨励賞	大木 雄一 小林 洋平 齋藤 俊明 島田 英明 和田 洋子
<b>内田農業振興会</b>	
農業功労者表彰	久保 金一

平成 27 年度も、小平地区では数多くの農家が栄えある賞を受賞されました。本年 3 月に、受賞者を祝うため、受賞伝達式ならびに顕彰祝賀会を開催しました。受賞された方々は左表のとおりです。受賞農家の皆様、大変おめでとうございます。

また、当日は記念講演として農林水産省農村振興局都市農業室・渡邊新一郎氏にお越しいただき、都市農業振興基本法を受けた国の取り組みについて講演していただきました。

## 多数の農家が受賞！平成 27 年度顕彰事業



↑ 受賞伝達式の様子



東京都農業会議会長賞  
受賞者のみなさん



↑ 島村 速雄・敏江 夫妻、  
島村 将人・さやか 夫妻とご家族

村野 幸徳 氏 →



↑ 川里 利雄・眞友美 夫妻とご家族

### ★ も く じ ★

- 2 ページ
- ☆小平のピカイチ
- 3 ページ
- ☆秩父市の視察
- 4 ページ
- ☆農業への想い

# 小平の ピカイチ

梅雨空も中休みの一日、小川町の藤野家を訪問しました。江戸時代から続く、当代とって九代目、農業委員の藤野一夫さん。農業に対する思いや情熱について、畑を拝見しながら、インタビューしてきました。

## 農業への思い

「農業の魅力は、四季折々の野菜を自分で作れること。農作物が今何をしたいのかしっかりと解るようでないとうまく育ってくれないが、そこを解決した時の満足感、充実感が農業をやっているよかったです」と藤野さん。良い農作物に繋がる。」と藤野さん。良い農作物を作るために、日々努力しておられます。また、3・11の時、大きな揺れのため、近所の方が畑に飛び込んできたという出来事があったそう。で、「避難場所として人の命を守る場所としても農地は大切な財産だ。」と語っておられました。

## 今取り組んでいる作物

主に、里芋と枝豆を作っており、市場出荷しているため、特に見かけのよさと食味を心がけているそうです。里芋は、丸みがあり大型の、良い株を広い面積の中から何年もかけて選別を繰り返し、秀品の割合を高める努力をしてこられたそうです。

↑畑にて、藤野さんご夫妻



## 工夫していること

里芋などのマルチを敷く場合、南北方向に敷いているそうです。利点としては、  
 ① 南北方向の強風に対して、風は上を抜けていくため、マルチが飛ばされにくい  
 ② 小平の畑は南北に長いので、南北に敷くことで1列が長くなるため、トラクターなどの機械作業が無駄が少ない  
 その他にも、冬に1日の中できちんと畝の両側に日があたるため、保温効果がある、ということも教えてくださいます。小平の土地や気候をうまく生かした素晴らしい工夫だと思えます。

里芋の畑。マルチが南北方向に細長く敷かれています。↓



## これから目指すこと

「作りなれた野菜を中心に、その時のニーズに合った作物を作っていけたら。」と藤野さん。また、野菜だけでなく、果樹も手掛けてみたいとのこと。去年、キウイの一種のコウヒという果樹を接ぎ木したところ、沢山実がなったので、収穫が楽しみだそうです。実際に、コウヒの木を見せていただきましたが、たくさんの実が実っており、説明している藤野さんの嬉しそうな表情が印象的でした。  
 販売も、市場だけでなく、JA直売所や、庭先販売、畝売りなども選択していきたいと仰っていました。



↑実をつけた枝豆(左)とコウヒ(右)↑

☆オマケ☆  
 直売をするなら、茶豆を作りたい、と藤野さん。とてもおいしいそうです。気になったので、先日、小平産の茶豆を食べてみました。独特の香りとコクがあり、言われていた通り、とてもおいしかったです。  
 (事務局)

# 秩父市の視察（平成28年3月31日）

年度末の一日 秩父市へ視察  
研修に伺いました。

ここ秩父市では平成26年2月の大雪で大きな被害を受けたとのこと。このときは小平市でもハウスに被害がありました。秩父市は1m以上の積雪があり、約300棟のハウスが被害を受け、面積にすると9.1ha、被害見込み額は8,200万円にも上ったとのことでした。



この被害に対する支援策として、市から廃材処理費用の免除や見舞金が支給された他、再建費用については、国からの補助金も活用して、被災した施設と同程度の施設の復旧・修繕費用の9割の補助が受けられました。これによって83軒の農家のうち、73軒が補助を受け、10軒は撤去のみでしたが、97%が再建できたとの説明がありました。

実際に再建された和銅農園さんにお邪魔して、ハウスを見学させて頂きました。

高設栽培のハウスの中は雪等の自然災害に対する備えとして、ハウスの間を空けたり、柱を工夫するなどの方策が実施されています。シーズン真っ盛りということもあり、美味しいイチゴを試食させて頂きました。また、どの地域でも悩む後継者について、ハウスの果樹栽培に携わる農家は、後継者が揃っているとの頼もしい一言もあり、車いすでもいちご狩りが楽しめる高設栽培の広々とした観光イチゴ園の未来は、小平市においても注目したいところです。



## ご案内

農業者年金のおしらせ  
加入で大きなメリットを

農業者年金は国民年金に上乗せした公的な年金制度です。支払った保険料は社会保険料控除の対象になり、所得税、住民税が節税になるメリットがあります。

### 加入できる人

- 国民年金第1号被保険者
  - 農業に年間60日以上従事する者
- \*詳しい情報は、農業者年金基金ホームページをご覧ください。

## ご案内

全国農業新聞の購読を  
週刊発行の農業専門総合誌

全国農業新聞は、農業委員会（会系）統組織が発行する農業総合専門誌です。農業経営と、暮らしに役立つ情報をお届けしています。最新の農政情報や地域の特徴ある明るい話題など楽しめる記事が充実しています。

購読料：1ヶ月700円

申込み：農業委員または

農業委員会事務局へ

# 農業への想い

## ☆粕谷 英雄 委員(上水本町) ☆

小平市の農業。それはいわゆる都市農業と言われる中にあります。都市の中では供給に意識を傾けるよりも需要に重点を置いて考えて見ると、付加価値の創出により取り組む課題が現れ、可能性も高まり、それがこれからの活路となるように思えます。

私事になりますが、販売事業の工夫や体験農園の開設等、歩みの中で確実にその需要を感じ、さらに研究開発を重ね提供して行きたいと考えています。

小平の農業に関わって私の想いは、「育てます野菜も人も！みのります野菜も人も！」となるように。

## ☆浅見 三三 委員(小川町) ☆

結婚後に就農し30年。農家のバカ息子が後継者になり、親となり、じいさんの手前です。ビジョンは、安全でおいしい野菜を安定供給し、農地を守ることに。タイムマシンで30年前の小平に行き、開拓者と話したい…。たぶん「農地を減らすな！」と叱られる…。私は、完全制御施設栽培での野菜の安定供給をめざし、小平の伝統である小麦を作り、うどん製造を開始しました。“開拓者精神の宿る農地は宝もの”として未来に残すべきです。

## ☆細谷 正 委員(議会選任) ☆

私は、農地が災害の時にも役立つことを強く感じています。東日本大震災以降も、日本各地では集中豪雨や地震が頻繁に起きています。

小平市においても例外ではないと思います。都会の住宅内にある農地は、いざという時に防災協力農地として市民の方々に広く役立ちます。年月の流れのなかでは宅地にかわっていくばかりですが、貴重な都市農地を残していくためにも、農業発展のために一緒に盛りたてていきたいと思います。

## ☆中村 正男 委員(大沼町) ☆

農業を始めてかれこれ半世紀になりました。野菜と養豚の複合経営で、野菜は市場出荷中心でした。徐々に市場出荷から畝売り、庭先販売と移行してきました。

現在は庭先販売・学校給食レストラン等の納めが殆どとなりました。消費者ニーズを勘案し30〜40種類を栽培しています。少量多品目栽培は品種特性を生かす難しさもありますが、納得出来る野菜を栽培収穫した時は格別です。今後の思いは自然共に生活出来る楽しめる農業です。

## ☆津本 裕子 委員(議会選任) ☆

子供のころ小平は周りの中が畑でした。

子供の数も多くガキ大将を中心に群れをなして遊びまわっていました。畑は恰好の遊び場所。農家の方には迷惑をおかけしたかもしれませんが、特にかくれんぼには最適でした。畑を区切るお茶の木はしゃがめば見つかりにくく、隠れてい

る間はお茶の実を探して拾い集めていました。ウチの近所に多かった里芋畑も雨上がりには最高の遊びができます。葉っぱの上の水滴を落ちないようにくるくる回す。今思えば単純な遊びでしたが、飽きもせず楽しんでいました。いつのころからか、畑は住宅に変わり、かくれんぼ

もしい年齢になっていきましたが、畑が大好きという思いは変わりません。食いしん坊の私は、「美味しく楽しく」が Motto です。地元産の美味しい野菜をたくさん楽しみたいと思います。最後に「茶の花」は他の多くの花が春や夏の季節になっている中で冬の季節です。そんな風変わりなところもいいなと思っています。

## ☆田中 信明 委員(農協推薦) ☆

小平市では、教育委員会及び給食栄養士会のご理解のもと、JA 東京むさし小平支店指導経済課ならびに小平市野菜組合・JA 東京むさし小平経済センター直売会の連携で児童・生徒の学校給食に地元

小平産農産物を食材に、と導入を進めています。平成23年から取り組みを開始し、平成27年度は小平産農産物導入率25%を超える実績を上げております。また、学校側の理解を得て、生産者がふれあい給食にも招待されており、小平農業の理解が深まっております。

現在、JA 東京むさしの上部団体JA 東京中央会では、JA 自己改革関連で農地のない東京区内の学校給食に農産物を供給する事業を東京都教育庁と相談しながら進めております。このことは単に食農教育だけでなく、フードマイレージを考えると地球環境にやさしい取り組みであり、今後も力強く推進する事業であります。

### 編集後記

新茶・新じゃが、新米、とうもろこし、スイカにメロン、柿。季節ごとに出てくる作物が違うからこそ四季を感じる。農業委員になり、私たちの食を支える農家の方々の工夫と努力を見聞きしてきた。小平の農地は減少の一途をたどっている。議会推薦の農業委員として、市民感覚で、小平の農業の発展に少しでも寄与出来るよう頑張りたい。(石毛 航太郎)

津本 裕子 浅見 三三  
竹内 義雄 石毛 航太郎